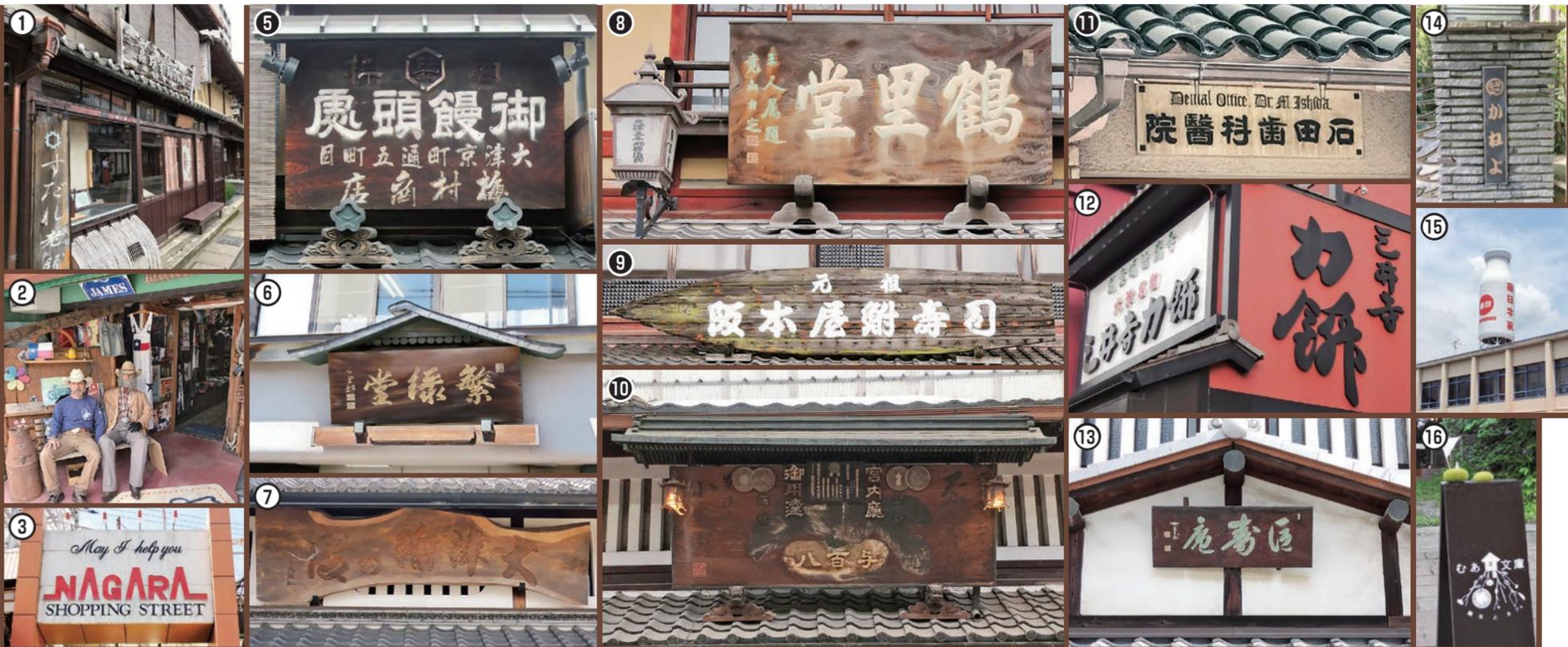


大津けいはん タイムス

「大津けいはんタイムス」を手にとっていただきありがとうございます。
本紙は大津市内を走る京阪電車沿線の人々との交流と、まちの活性化を目指し「大津の京阪電車を愛する会」の会員自らが作った情報紙です。

★「大津の京阪電車を愛する会」は、貴重な公共機関としての京阪電車大津線（京津線・石山坂本線）の利用促進を図ることなどを目的に設立された市民団体です。



⑤中央2、御饅頭處餅兵。約250年前創業、台座に梅花の飾り。⑥浜大津1、株式会社ハン六。⑦三井寺町3、大津絵の店。⑧京町1、鶴里堂。大津菓子を1世紀以上。⑨長等1、鮎すしの阪本屋。舟の底板を看板に。⑩長等2、八百与。1850年創業、近江かぶらの絵、台座に狛犬、⑪中央1、石田齒科醫院。イタリア産の大理石に彫る。建物も国の登録有形文化財。⑫浜大津2、三井寺力餅本家。⑬長等2、叶匠壽庵長等総本家。⑭逢坂山の鰻・鯉料理かねよ。⑮あかね町3、毎日牛乳滋養工場。⑯坂本6、むあ文庫＝2面参照。

大津の看板

大津市は屋外看板類のうち、長年親しまれて古都の景観の一部になったものを将来に伝えようと「景観重要広告物」に指定しています。指定11件（●数字の看板）をはじめ、大津の今を映すさまざまな看板を探して沿線を歩きました。



⑰本丸町3、亀屋廣房。膳所にちなむ菓子も。⑱唐橋町、油清商店の自作看板。⑲石山寺1、茶文藤村の手作り看板。⑳瀬田1、うなぎ料亭山重。㉑柴町、容輝湯。唐破風屋根の下に看板。㉒瀬田2、にしよ呉服店。㉓神領1、たにし給の辻末製菓舗。



㉔坂本4、本家鶴菴そば。建物も国の登録有形文化財。㉕坂本4、パン工房西洋軒。㉖坂本4、日吉そば。日吉大社参道沿い。㉗坂本4、ゆどうふ芙蓉園。㉘坂本本町、登録有形文化財ケーブル坂本驛舎。㉙三保ヶ崎、旧三高艇庫。琵琶湖周航の出発点。



飛び出し坊や注意 ㉚図書館前で手に本。㉛大津駅観光案内所の大津絵風。㉜かねよの鰻坊や。



標識集 ㉙追分の旧東海道分岐点。右は53次終点の京へ。左は57次終点の大坂へ。㉚車で市域に入るとまず目につく「観光船のりば」。㉛石山商店街の踏切標識。図柄は独特。㉜栗津の河川管理境界標識。

京津線の電車は逢坂山を越えるため、大谷駅から上栄町駅まで、急勾配、トンネル、そして直角に近い急カーブを、速度を落とし車輪をきしませながら走る。やがて上栄町駅を過ぎると、今度は国道161号に出て路面電車となり車と並走して進んでいく。旧東海道でも難所と言われた峠だ。

上栄町駅から逢坂山に向かって5分程歩くと、関（せき）蟬丸神社下社の境内を京津線が走る珍しい光景に出会う（写真⑤）。関蟬丸神社は平安時代前期、逢坂越えの関の守護神、道祖神として建立された。その後、歌人蟬丸が祀られ芸能の祖神として崇められている。

関蟬丸神社の宮司橋本匡弘（まさひろ）さん（42）は「神社には水が湧き出る関の清水があり、水の神様と祀られ旅人、地域の人々に恵み与えていた」と話す。眼病にも霊験あらたかだ。今年5月28日(日)には第3回関蟬丸芸能祭が琵琶の弾語り、京都島原太夫道中による箏（そう）、舞の奉納など盛況に催され、1500余人の人出だった。無事終了し宮司は感謝の気持ちを示されていた。平成34年で神社開創1200年になるので、老朽化しているお宮さんをそれまでに何とか整備したいと強い思いを語っていた。関蟬丸神社の近くには、この水の恵みを受けている銭湯「小町湯」がある（写真⑥上）。現在の経営者の秋岡秀俊さんに聞くと、開業は江戸時代末期頃。大津宿から逢坂山に向かう東海道沿いにあり、「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関」と、かつて蟬丸によって詠まれた地だ。近年の最盛期は昭和30年代。洗い場の順番待ちをするほどだった。格天井に立派な欄間のある脱衣所（写真⑥下）は明治からのまま、浴室の富士山のタイル画も見事で、よき銭湯文化を今に伝えてくれる。

小町湯からさらに浜大津に向かって下っていくと、食

料品を扱う石川商店がある、おかみさんによれば、ここは上関寺町といい、昭和40年代まで今の上関寺国道踏切あたりに駅があった。そこから、これも廃駅となった札ノ辻駅まで距離にして八丁（約872メートル）あったことから「八丁商店街」といわれ商店が並んでいたという。江戸時代までは街道の両側に旅館があり、逢坂の関を越えて都に向う人々が身支度をするため、いろいろな店が軒を連ねていた。かつての活気はないが、往時を偲ばせるように今も頑張っている店もあり、話を伺えば簡単に

素通りできない「八丁商店街」だ。

上栄町駅の踏切近くで、幹の周囲8.7メートルの大きな榎の巨木に出会う。本願寺近松別院の羽栗周映さんの話では、蓮如上人が北陸に向かう時、三井寺で社行会が開かれた。その折、蓮如上人を毒殺から守り、身代わりになった愛犬を手厚く葬り榎を植えたとする。この犬塚で榎は樹齢数百年を経てなお力強く生きている。

上栄町駅かいわいの奥の深さを、随所で垣間見た旅だった。

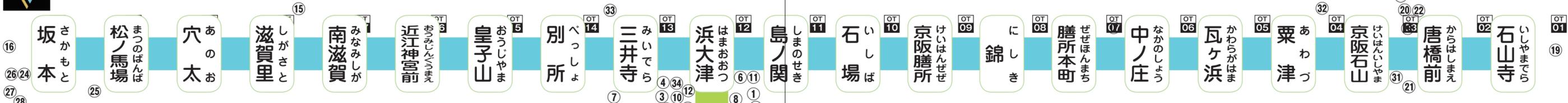
神社境内を走り抜ける電車

途中下車の小さな旅

上栄町かいわい



石山坂本線 駅名近くの①～⑳は、1面「大津の看板」の写真番号です。看板の所在地を示しています。



駅名近くの①～⑳は、1面「大津の看板」の写真番号です。看板の所在地を示しています。

街歩き情報

一度は寄ってみたい身近な文庫

むあ文庫（大津市坂本6-2-33）

【開館】土・日：11～18時 ☎080-3111-6982

25年前、児童文学に興味を持っていた両親が、雑木林に囲まれた可愛い文庫を開設。10年ほど閉じていたが、今年5月、絵本とカフェの文庫として娘さんが再開した。絵本、児童文学を中心に約4000冊の蔵書がある。あらゆる分野にわたりセンスのよい本が棚に並ぶ。貸し出しはしていないが、隠れ家のような文庫での読書は時間を忘れさせ、至福の時を刻んでくれる。



キンモクセイ文庫（大津市大門通16-6）

【開館】月・水・土：10～18時、火・木：15～18時、日：13～18時（毎月15日は休館） ☎080-6119-6378

2015年5月から自宅の一室で開設。文学、児童書、料理、手芸、音楽、歴史など家族の幅広い趣味が詰め込まれた文庫。兄の蔵書の鉄道旅行の本も充実し、母の布絵本もある。「自分たちの好きな本を集めた文庫。その本に興味のある人が立ち寄って本が読める場所の一つのモデルケースになりたい。三井寺の参道にあり、観光客にも立ち寄って欲しい」と主の若山香さんは語る。



ゆうゆうかんマイクロライブラリー

（大津市長等2-9-1 大津市まちなか交流館ゆうゆうかん3階）

【開館】10～19時（水曜日定休） ☎077-525-6674

本を通じた、地域での世代間交流を目指して3階に図書コーナーを開設。3か月ごとにテーマを決め、市立図書館から本を200冊選び入換、関連したイベントも開催する。秘蔵数々の広々とした部屋には、子ども向けのおもちゃも揃っていて、遊ばせながらゆったり読書ができる。近隣の飲食店、医院などと連携し、まちなかの蔵書情報を紹介する試みも始めた。



晴嵐コミュニティ図書

（大津市北大路1-9-5 晴嵐市民センター内）

【開館】水：14～16時、土：10～12時・13～15時 ☎077-537-0743

市内では一番古く、昭和50年（1975）に始まり、学区からの応援も受けて40年を越える実績を残している。今では図書を仲介に、地域の人々が交わるホットスペースになっている。現在の蔵書は約1万冊、子ども向けが7割を占めるが、大人向けの図書も揃え利用層は幅広い。貸出しも活発で、世話役が数人ずつ当番しながら支えている。人材のバトンタッチができていくグループだ。



大津市中央、丸屋町商店街で「結納の七黒」には、ひととき“和”の趣が漂っている。白木造りの店構えや、ショーウィンドウの松竹梅の飾りが目を引く。この店舗は奥さんの弘子さん（65）が切り盛りし、すぐ近くの寺町通りに夫の勝士さん（66）が仕切る「折箱屋（食品包装容器）七黒」がある。いずれもお祝いごとに深く関係する文化を、伝承の技で支えるお2人だ（写真⑧）。

お店は、1905（明治38）年、勝士さんの祖父が中堀

町で折箱を職人として作り出したことから始まった。折箱とは弁当容器で用途により寿司折、菓子折などがある。もともと、エゾマツから作る榎木を折り合わせて成形していたが、近年は発泡スチロール材が多くなっている。地元老舗商品オリジナルの折箱も多く受注しており、夏にはヨシを使った涼しげなすだれ折に、鮎の菓子がいっぱい詰まった箱が季節を感じさせてくれる（写真⑨上）。山王祭では杉箱が「献上箱」として用いられる。婚礼の引き出物として、赤飯や紅白饅頭、肴等

京阪沿線でがんばる人たち



お祝いごと文化を支える七黒勝士さん弘子さん夫妻



夫は折箱業、妻は結納店

駅名近くの①～⑳は、1面「大津の看板」の写真番号です。看板の所在地を示しています。



長時間の練習で、集中力と忍耐力を養うアーチェリー部



今年の課題研究：沖島での鮎ずしピザ開発

資格取得や実習でやりがい

活躍アーチェリー部、学業にも集中力

滋賀県立大津商業高等学校

沿線の

学校へ行こう

「大商」の呼び名で親しまれる「滋賀県立大津商業高等学校」は、別所駅下車すぐ、大津市役所の隣にある。滋賀県内に2校ある商業高校のひとつで、1905（明治38）年創立。現在の場所には1959（昭和34）年に移った。同校ではビジネスの各分野で活躍できる人を育てようと、各種の検定資格を取得することに力を入れている。簿記検定やITパスポート試験など、社会に出てから様々なシーンで役に立つ基礎的な知識のほか、情報処理や会計実務の分野で高度な能力を身に付けようと、頑張る生徒たちもいる。そのおかげで有利な条件での大学進学や、会計事務所への就職も可能になるという。

「情報システム科」では、最新のコンピュータ機器を使って情報処理やプログラミング、電子商取引（EC）も学ぶ。高校生向けのECビジネス実践授業「楽天IT学校」に近年参加し、協力店舗のネットショップ上に、購入につながるよう工夫を凝らした商品ページを作成・掲載する。2016年

度の成果発表会「楽天IT学校甲子園」に出場したチームは、生活雑貨を扱っている会社の保温弁当箱の商品ページの出来を評価され、特別賞を受賞した。今年度は、コンピュータや携帯電話等を扱っている企業との協働だが、どんなページができあがるだろうか？

「総合ビジネス科」では、商品開発の授業で地元の食品会社の協力を得て、新商品のアイデアを具体化する実習を行ったり、地域活性化の案を考えたりする。大津・滋賀のことをあまり知らなかった高校生たちが、授業をきっかけに身近な場所や物に興味を持つようになるという。

また、両科共通の課題研究では、地元野菜の販売促進も目的として、鮎ずしを漬けた後の飯（いい）を使った野菜ディップを企業と一緒に開発し、「商業高校フードグランプリ」で賞を獲ったこともある。「生徒たちは、普通科に通う高校生には経験できない実習を通じて、やりがいを感じてくれている。失敗もしっかりと受け止めて、その後の糧にしていってほしい」と、同校の松木先生は語る。

大商のクラブ活動で特に活発なのは、陸上競技部、女子ソフトボール部とアーチェリー部。2024年の滋賀国体強化拠点校に指定されている。特にアーチェリー部は少数精鋭。男子5人、女子10人という人数にもかかわらず、全国レベルの大会で毎年活躍している。これほど少ない人数で常に入賞できるチームは、なかなかないらしい。週7日の練習で、集中力・忍耐力を養う。顧問の中井先生は、「練習量の多さはトップレベルです。脳科学に基づいたトレーニングもしています。僕は生物の教師ですから」と笑う。部員の集中力は学業にも生かされている。時間が足りないない、言い訳をしないで部活と勉強の両立を図る。また、少人数ゆえ学年を超えて仲がよいのもチームの特徴だ。のびのびと競技に臨むことが勝利につながっているらしい。

今秋は、地域の人々が気軽にアーチェリーを体験できるイベントを企画中だとか。一矢に集中する楽しさを、あなたも味わってみませんか！

京阪大津線は、1997年10月12日(日)から京都市営地下鉄東西線に乗り入れ、大津と京都を結ぶ動脈として新しい姿に生まれ変わった。それから20年、今年からまた新しい装いで走り始めている。

京阪電車知って得する! まめ知識

京津線 京都市営地下鉄乗り入れから20年



■京津三条～御陵間が廃止

1997年10月11日土曜日。京津三条駅、22：06発の普通四宮行き、そして22：12発261-262号車(注1)の準急浜大津行きをもって、京津三条～御陵間の営業運転は終わった。この三条発最後の準急電車が、京都市営地下鉄線への乗り入れ線路との切替地点(写真②、注2)に差し掛かると、なんとその場所で一旦停車。独特の低い警笛を鳴らして、これまでの線路に別れを告げた。浜大津駅では、電車から降りたお客さんの自然と湧き出した拍手に見送られ、役目を終えた車両は暗がりの引き上げ線へ転線していった。

■当夜だけ運転された京阪山科行き列車

上記の電車が通過後、御陵～京阪山科間では線路の切替工事が始まり不通となった。そのため、浜大津駅から京都方面へ向かう電車(写真①、注1)は、京阪山科駅で折り返しとなり、また午後9時頃から最終電車まで、京津三条～京阪山科間に列車代行バスが運転された。



■当夜のもうひとつの切替工事

線路の切り替えと並行して、重要な切替が行われた。それは、電車用電圧を直流600Vから、地下鉄東西線

と同じ直流1500Vへ昇圧させる工事だ。これは沿線の変電所内で行われ、新しく1500V用として生まれ変わったのが四宮・滋賀・石山の各変電所。その陰で600Vとして役目を終えたのは、三条・馬場にあった変電所だ。

車両側も、600形700形は当夜に電圧切替作業が車庫内で行われた。なお、800系は1500V専用車として製造されている。

■1997年10月12日初発前にセレモニー

1997年10月12日の日曜日、浜大津駅5：12発の京都市役所前行き初発列車より、京津線は御陵駅より京都市営地下鉄東西線へ乗り入れを開始した。初発電車は800系801-802号車の4両編成、浜大津駅で記念のセレモニーが行われた(写真③)。

■最後の準急などの「台車」はアメリカへ

この年10月11日限りで勤めを終えた車両は、その後解体されていった。その中で、今なお健在の部品がある。それは電車の履物とよばれる台車。京津三条発最後の準急列車となった261-262号車(注1)の台車はアメリカのミネソタ交通博物館へ、貨物車両122号車の台車(写真④)がシーショア・トロリー・ミュージアムへ寄贈された。261-262号台車はボールドウィン



社、122号台車はプリル社製と海外メーカーの製造品。特に122号台車は京阪電車が開業期の頃から使いつけられていたものだ。これらの台車は、ミュージアムで動態保存される車両のために活用されているとのことだ。

■京津線は装い新た、再び緑の電車に

京津線、石山坂本線と共に、路線シンボルマーク(注3)も制定され、2017年8月からは装いも新たにリニューアルされた800系が登場。今後順次800系車両は石山坂本線を走る600形700形車両と同じカラーリングとなり、車両イメージを統一、再び緑の京阪電車(写真⑤)として活躍を始める。

(注1) 京津三条発最終準急は浜大津駅で折り返し、当夜のみ「浜大津・京阪山科」の運行標識板を掲げ、国道161号を走った。

(注2) 手前が地下鉄へ入っていく新線。隣の廃線となる線路を、同じく廃車となった80形車両が走る。

(注3) 京津線
シンボルマーク

石山坂本線
シンボルマーク



愛する会のイベント

<大津遷都1350年クイズラリー>

11月頃に大津遷都1350周年を記念したクイズラリーを企画しております。乞うご期待!!

お知らせ

<会員様限定感謝祭>

毎年8月に開催していましたが今年度より3月に変更いたします。

*応募方法等詳細につきましては、それぞれ1ヶ月前をめどにホームページに掲載いたします。皆様奮ってご参加ください。

大津の京阪電車を愛する会 会員募集中!

皆さんも本会とともに京阪電車大津線を支えていきませんか?



入会方法

ホームページはこちらから

- 入会は1口2,000円です。
- ご住所、ご連絡先を電話(077-528-2736)、FAX(077-527-1028)にてお伝えいただければ、申込用紙兼振込用紙をお送りさせていただきます。
- 申込用紙兼振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの郵便局で会費をお振込ください。後日会員証、乗車券等をお送りいたします。

会員特典

- ☆1口(2,000円)につき普通乗車券綴り(170円区間×6枚)がついてきます。
- ☆市内約40施設で割引等の特典が受けられる会員証1枚。
- ☆本会主催のイベント案内等を定期的にお送りします。



申込用紙は京阪大津線主要駅に設置しています。

大津の京阪電車を愛する会

<http://otsusen.net>

〒520-0861 滋賀県大津市石山寺3丁目27-11
TEL: 077-534-2800
(祝日を除く月～金 8:40～17:25)

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3-1
大津市未来まちづくり部・交通戦略室
TEL: 077-528-2736
FAX: 077-527-1028